

520

依ると、米門には米兵戦死者の写真は我々雑誌に
掲載されてゐる事だ。

今朝木暮夫人に宛てた久し振りに書面を送った。先達
は田夫人に祝辞の葉書を出したほか、実に七ヶ月振りの
書信執筆だ。

佛
教
講
話

午後七時、大川先生に依頼し、才木会館で有志の人
達集合の上、佛教講話を聴く事かできた。有益な講
義であった。右講義に、佛教の根本義として在る
其の原理を語られたが、記憶せらるゝと記録に置く。

四 諦法明

老 諦 = 現実の相

集 諦 = 現実の理由根拠

滅 諦 = 理想の境地

道 諦 = 理想への道程

以上より 輪廻轉出の教義が胚胎する。
無明より識、名色、六入、觸、受、愛、取、
有、生、老死。即ち“有”より更に“無明”以下を繰
り返へ、生ずるのであって、人生すべて輪廻轉出の
理と明らさるゝといふ。

二月廿六日(金)。

今朝はまた北風に成り寒い。寒いと言っても窓
を開け放って置けぬ程度だ。

吾がK-1 areaの Messhallへ食事に來る八名、
は平西軍将校中に頸下に緋帶が、ガゼが長さ八寸

521.

捕虜中佐の
自殺説

位のものを見張り付けてゐる、四十と少い出たと見れば
人がある。無事、怪我が腫物と察せられたか
此時校は捕虜兵中の最高者で機関中佐だ
といふ。而して右の傷は、最近食事中のナイフで自
殺を遂げんとした結果だといふ。

右へ右の食卓後柵の外のパラツクル床の隣、中
佐は、一度身体搜索がけられるか、これは昨廿五日
から実行されたものらしい。一新校は搜索を受ける
際「馬鹿な何と持ってるものか」との責をうけて
目撃者の一同が、fatigueの帰途、過剰にも
その責にぶつかって、残念な結果を遂げた。身体
搜索は刀物を捜すのか目的らしい。事実とすれば
前記の中佐及び部下各将校の心中を、一入察し、真に
同情に堪へぬ。

右がパラツクの同志、カリフォルニア州の
石塚國三郎君の友人 (internee) の許に面会の
為の来訪に、その家族の故として、石塚君に付へ
た Colorado 州にある relocation center 内の、日本
人 evacuees - ^{Apache} 一部の空気に慣れた情報は、頗る注
目に値するものがある。たゞいへば、或る internee
家族が、施設の family center に移住するに當り、其
の家の子息 (婦人) が十一歳ある故に、其處に移住
許可の許給といふ。然るに center の一部局は
全人を呼び寄せ、戦時中へ移る意欲をいふやとの
質問に、然りと答へた。すると幸向は、若くして

522

へる決にすれば父母との同居は別として、戦後引き続き在米生活と欲すれば、family centerにこの同居は勧めないと思告したの事である。

この忠告は聊か含蓄あるものとして一度傾聴に値し、即ち戦後は故ての internees 家族と送還する政府の方針か、或は一般社会状況が豫想せられるとも解釋できる。戦後在米 internees に対する米政府の処置は、どんなものであろうかは頗る興味ある問題であって、政府としては今尚之に關する何等の豫定方針は、発表を控へてゐる様であるが、今日迄の在米邦人に対する処置から推断すれば、劣年の癌とも成つてゐる在米日邦人を根柢から掃きさて、将来に其の禍根を絶たうとの意圖は窺取できる。

二月廿七日(土)。在

アイダホ州センターに一家より、H区域の某君への通信によると、インフ一家族に対する一般 evacuees の態度は、敬遠主義と取り従来親密な同栖の人々でさへ、親しまぬといふ程に唾棄すべき現象だと云ふ。此等の家族は日本人として国籍を脱したものと認めて、戦後日本への上陸は断乎拒否すべきだ。僕は物口の上は、尚尙同じ一般社会に向つて此実と最も強硬に主張する。事細些に似ても、實に日本人民として重大事項である、彼等は状況の轉換をめぐり、日本人に還るも又米犬とも成つて